

補聴器専門店
耳の友
 10万円以下からはじめよう
 「はじめの一歩」相談
 まずはお電話でお問い合わせ下さい
 認定補聴器技能者 片桐宏文
 TEL 044(244)9770
 川崎区東田町11-1 新川崎バス停前
 定休日：月曜日、第2日曜日
 9:30~17:30
 9:30~12:30

2021年
 (令和3年)
1月15日(金)号
 No.659
 ■発行責任者：宇山知成
 ■編集長：金屋大輔
 ■発行：株式会社タウンニュース社
 https://www.townnews.co.jp
 ■編集室：〒211-0042 川崎市中原区下新城三丁目14-7 TEL：044-741-4111 (代) FAX：044-741-4002

川崎区・幸区版
 ■発行：株式会社タウンニュース社
 https://www.townnews.co.jp
 ■編集室：〒211-0042 川崎市中原区下新城三丁目14-7 TEL：044-741-4111 (代) FAX：044-741-4002

幸区にSDC開設

ソーシャルデザインセンター

地域課題解決の新拠点

川崎市内で2番目のソーシャルデザインセンター「まちのおと」が1月12日、鹿島田駅・新川崎駅近くの新川崎タウンカフェ内にオープンした。地域活動を行う諸団体のつなぎ役を担い、地域課題解決を目指すまちづくりの新拠点として期待される。

ソーシャルデザインセンター(SDC)は町内会・自治会、NPO、市民活動団体など、地域活動を行う団体や個人を結びつける中間支援拠点。様々な団体を結びつけることで、地域課題の解決を目指す。



「気軽にご利用ください」と岩川さん(左)と岩川さん(右)に基盤創出に向け事業者を募集。6月に新川崎タウンカフェを運営する株式会社イータウン(横浜市港南区・齋藤保代表取締役)と地域情報の調査、地域ネットワークの構築、活動に関する相談・アドバイス、人材発掘・育成、情報

掲げ、各区に整備を進めており、これまでに「多摩区SDC」がオープンしている。川崎区でもSDC創出に向けた動きはあるが、拠点として開設するのは幸区が2番目となる。

幸区は昨年4月、区域レベルの中間支援機能の

三陽フォトスタジオ
スライドショーを贈呈
 記念写真撮影の人に無料で
 撮影した人に、無料でスライドショーをプレゼント。写真は6枚。期間は2月~2023年。この機会にぜひ」と同店。
 ■申し込み番号 044・222・4473

の収集・発信などについて協定を締結した。齋藤代表とカフェ店長の岩川舞さんが相談アドバイザー・コーディネーターとして相談を聞くほか計4人のスタッフで運営事務を担う。

「まちのおと」の名前には自分たちが暮らすまちの「音」を感じることに「NOTE(ノート)」としてまちの音を描くという2つの意味が込められている。

カフェの一角をリニールしたスペースには4人席のテーブル、

ホワイトボード、PCスクリーンを設置。岩川さんは「簡単なワークショップなども行えます。これから発起したくお場所を探しているけどお金がないという方方には是非使っていただければと思います」と利用を呼びかける。

今後の活動として1月31日(日)にまちあるきと交流会、3月14日(日)にまちあるきとミニセミナーの開催を予定している。

まちのおとへの問い合わせは044・555・0333まで。

市政報告
就職と住居確保への支援を!
公明党川崎市議団 浜田まさとし

12月議会では、雇用対策の強化や住居確保への支援などを訴えました。
■就職説明会の広報充実へ
 新型コロナウイルスで特に若者と女性の雇用に影響が出ていることから就職支援の充実を求めました。
 経済労働局長は「若者対象の合同就職説明会等」を多く開催し、女性向けには託児サービス付き相談窓口を設け、市内企業との交流会も開いています。引き続き、市内の企業から多くの求人情報を集めている『キャリアサポートかわさき』(☎0120・955・3087)等で支援していきます」と答弁しました。

■家賃支払への支援強化
 コロナ禍で家賃の支払いに困っている人を助ける住居確保給付金(☎0120・130・620、平日午前8時30分~午後6時)の支給が増えていることから住居確保策の強化を訴えました。まちづくり局長は「新型コロナウイルスによる解雇等で住居に困っている人に市営住宅の一時提供(原則6カ月間、最大12カ月間)を行います(担当)市役所住宅管理課 ☎044・200・2948、平日午前8時30分~午後5時15分)。今後、单身者等の市営住宅入居の条件見直しを検討します」と答弁しました。

■小田踏切の渋滞解消を
 賢い踏切という駅を通過する列車と停車する列車を見分けて踏切の遮断時間を短くするシステム(踏切警報時間制御装置)があることから小田栄駅近くの小田踏切への導入を求めました。建設緑政局長とまちづくり局長は「賢い踏切はピーク時に1時間あたり40分以上閉まる『閉かずの踏切』に導入されます」「小田踏切は1日4時の遮断が1時間あたり21分ですが、賢い踏切を求め地域の声をJR東日本に伝えます」と約束しました。

■身近な観光を楽しめる時間を
 工場後景ツアーをはじめ、市内観光のメニューを増やそうと提案。経済労働局長は「食事つき市内ツアーや市営・民営バスを利用する観光を進めています。2月には第11回全国工場後景サミットがカルツかわさきで開かれ、NHKで放送されます(2月26日午後7時57分~総合)。今後も地域活性化につながる取り組みを進めます」と表明しました。暮らし日本一の川崎へ今年も全力で働きます!

浜田まさとし
 健康福祉委員会所属
 川崎区選出 5期 58歳
 市政へのご意見・ご質問は
 Email: shimada@comel-kawasaki.com
 ☎044-200-3361